

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「利用者様一人一人の個性を尊重し、寄り添いながら、その人らしい生活ができるように支援させていただく」「地域との交流、人との関わりを大切にし、楽しく生き生きと生活できるように支援させていただく」以上をグループホームの介護目標として、開設時の職員等が作り上げ、現在に到っている。新しく職員になった者には、目標の趣旨を必ずオリエンテーションしている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>介護の目標であり、また、立ち返る介護の原点として、日々取り組んでいる。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>絵手紙をされている地域の方の協力により、絵手紙風に書いていただいた介護目標を、玄関脇に掲げ、来所された御家族や地域の方に見ていただけるようにしている。施設見学に訪れた方にも、必ず説明している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩等の際等、近隣の方達と挨拶や立ち話など、気軽に声をかけていただくことが増えている。ホームの前に市内循環線のバス停留所があり、バスを待つ間のひと時、ホームのベンチに腰掛け休まれている。ただし、ホームに気軽に立ち寄っていただけるようなお付き合いにはなっていない。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、総会や一部自治会活動にも職員が中心となり参加している。旭シルバークラブの例会(毎月1回)や夏祭りなどの行事には、入居者様も積極的に参加し、地域の方々との交流を深めている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>平成19年12月に、感染症の感染拡大防止のための学習会を企画し、参加者は少なかったが、実施できた。</p>	○	<p>介護相談など、地域の高齢者の暮らしに役立てるような活動に取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>外部評価の受審、自己評価を実施するに当たり、その目的や意義について、ホーム長より話し、具体的な改善に向けて取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>平成18年10月以後、2ヶ月毎の開催を継続している。入居者様の動向やホームの活動状況等を詳細に報告している。災害時の避難体制や通報装置の操作手順等について、会議の中で出された御意見を参考に作成した。また、自治会防火部長も会議に参加していただき、ホームの状況をお知らせしながら、有事の際の協力をお願いした。また、会議での御意見を参考に、平成19年12月、感染症の拡大防止について学習会を行なった。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>高齢者サービス調整チーム会議、高齢者虐待防止ネットワーク会議への参加、また、町主催の嚙下機能検診受診後の取り組みの成果などを会議で報告させていただいたり、身寄りのない入居者様のケース検討会に参加していただいた。町に寄せられたホームに関する苦情についても連絡いただき、速やかに対応するなど、サービスの質向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>そのように努めている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p> <p>身体拘束廃止推進委員初任者研修会に職員が参加し、伝達講習会等により人権等に関して学ぶ機会を設け、職員の意識をたかめて、虐待など見過ごされることがないように注意し、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約書に基づいた説明を行いながら、御家族等に不安や疑問が残らないようにと、努めている。入居されたり解約された後で、そのことに関するトラブルもない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関脇に御意見受付箱を設置している。また、苦情の受付さき(管理者、町役場介護保険課、国保連)を、重要事項説明書に明示し、契約時説明している。苦情等があった時には、速やかに対応に努め、運営推進会議等で経過等の詳細を報告している。また、職員にも周知し、再発防止に努めている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	2ヶ月毎発行の「あさひ小町」や半年毎開催の御家族懇談会で、ホームの動向や活動状況についてお知らせする他、御家族の来所時やプランの作成や更新時に、個々にあわせた詳細な報告をして、時の御家族の希望や意見などを確認させていただいている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関脇に御意見受付箱を設置している。また、苦情の受付さき(管理者、町役場介護保険課、国保連)を、重要事項説明書に明示し、契約時説明している。苦情等があった時には、速やかに対応に努め、運営推進会議等で経過等の詳細を報告している。また、職員にも周知し、再発防止に努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	業務委員委員会を設置し、業務に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、状況の変化に柔軟に対応する為の勤務の調整に、努めている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動等によるご利用者へのダメージを防ぐように、配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年度計画に基づいた研修の企画や実施、また、外部の研修等を職員が受講できるように努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域ケアカンファレンスや包括支援センターの企画する研修会などを通し、地域の同業者との交流を図り、サービスの質の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>業務委員を中心に、業務の改善などに取り組んでいるが、十分ではない。</p>	<p>○ 個人面接を年2回行い、ここのストレスの把握や働きやすい環境の調整に努める。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>そのように努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前には本人との面接の機会を設けて、困り事や、不安なこと、希望などを伺い、受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>施設見学や申し込みの機会を利用し、ご家族の思いや不安、困り事や入所についての希望など伺い、受け止めるように努めている。話をお聞きする事で、気持ちが楽になったと帰られるご家族もいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人やご家族の緊急性を判断し、急がれる時には、他の施設への申し込みや紹介なども含めてお話をさせて頂いている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設見学を勧めたり、管理者・計画作成担当者が訪問させていただき、少しでも安心して利用に結びつけられるように努めている。また、半年毎発行する「ホーム便り」を、地域や待機されている方々に配布し、ホームの活動状況等お報せしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	常に意識しながら、そのように努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	御家族が来所された時の情報の交換や、御家族参加のレクリエーションの機会を利用して、御家族の思い等をお聞きし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御家族と御利用者双方の、言葉にならない気持ちを代弁し橋渡しをしたり、御家族や御利用者の気持ちを受け止めて、御家族と入居者様がよりよい関係を築いていけるように、負担を和らげるような声かけや情報の伝え方に配慮している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前から通っていた教会に、ご本人が出掛ける日にちを忘れていらしても通えるように連絡をしたり、通いながら美容室や理容室へ出掛けられるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	側にいつも誰かが居るような空間作り、居場所作りに配慮している。御利用者間でトラブルがあった時など、双方の話を良く聞いて仲介したり、耳の聞こえづらい方などには周囲で話されていることや情報を伝えるなど、入居者同士が楽しく過ごせるようにしたり、孤立したりすることがないように配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入居時親しかった方との交流が断ち切る事がないように、退去された後も、連絡したり御利用者と共に訪問させていただいたりしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の意向を中心に御利用者を確認したり、意思表示の難しい方には日常の様子等から察して、出来るだけご本人の意向や気持ちを大切に関わっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報シートでの情報収集や活用、御家族からの生活に関する細やかな情報収集(入浴時の好みの温度、好みの味付け、暮らしぶりなど)に、努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	申し送りや記録、情報ファイルシートなどを通して、「その方にとっての今日の状況」を確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成・更新時やモニタリング時、職員間で情報を付け合せて、御利用者の状況に応じたプランの変更や追加を行なっている。また、新しいプランを追加する時は、本人の意向も確認しながら行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	タイムリーなプランの作成に努めている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日勤・夜勤では、必ず全員の記録を記入し、気づきや工夫したこと、またその結果についても記録し、介護実践の検討に活かしている。連絡ノートなどを活用し、個別の情報を記録することで、職員間で共有できるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームのもつ柔軟性を、活かした支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議の運営やアクティビティへの支援、有事の際の通報・協力体制など、各関係機関との連携は欠かせず、このように努めている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域のインフォーマルなサービスの活用について、今後、必要性や希望が出された時には、検討したい。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加していただき、ホームの動向や活動状況などについてお知らせし、御意見やアドバイスなどをいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居前に診ていただいていた医師に、入居後も継続して診ていただける様に、入居者様の状況をお伝えしたり、日常の健康管理に努めている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	そのように努めている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護師を確保しており、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	そのように努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「重度化した場合における対応に関する指針」「看取りに関する指針」を整備している。施設内で終末期を迎えられた方はいらっしゃらないが、体調の変化があった時には、関係者間で話し合い、方針の共有に努めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	「重度化した場合における対応に関する指針」「看取りに関する指針」を整備している。今後、ホームで「できること・できないこと」を明確にして、ご本人に「痛い・辛い・苦しい」がないことを前提に、かかりつけ医との連携やチームとして支援できるよう、個別の検討や学習会の企画などを進めているところである。	○	重度化したり終末期を迎えた御利用者やそのご家族への支援に関して、学習会の企画や、個別の検討、マニュアルの整備を進めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ホームから移られる場合には、細やかな情報の提供により、なるべく同じような生活が継続できるように支援している。また、入居される場合には、面接などの機会を設けて生活状況の把握に努め、なじみの物もって来ていただいたり、部屋が分かる様に、入り口に下げる暖簾やネームプレートなどを持ってきていただき、住み替えのダメージを軽減するように努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報の保護に関するマニュアルを整備している。接遇委員会を設置し、接遇目標を決めて取り組んでいる。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>御利用者の気持ちを察知しながら、ご本人が決定できるように意向は必ず確認している。また、御利用者の状況によっては時間を置いたり、ご本人にとってわかりやすい言葉など工夫しながら、関わっている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>出来るだけその方の希望を大切にしながら関わるよう努めている。お一人おひとりに満足していただけるようにと、努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>買い物の際にも、共に掛掛けて御利用者の希望のものを購入したり、選んでいる。御利用者の希望する店に出掛けられるよう連絡するなど、支援している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事準備は御利用者の日課となっており、一人一人の力や希望に応じた形態・やわらかさ・味付けとなるようにして、お出ししている。片付けなども、入居者様と職員が共同で行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みのものを楽しめるように支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表でその方の排泄パターンを把握しトイレ誘導や、尿取りパッドを使用されている方にはその方の状況にあったパットを使用できるようにアドバイスするなど、気持ちよく排泄できるように支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	御利用者の希望を聞きし、入浴を好まれない方には、タイミングや方法など柔軟に対応している。出来るだけ御利用者の希望に沿うように心がけている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の生活パターンに合わせて、日中にも臥床時間を設けるなどしている。夜間のドアの開閉や痒みなどで眠れない方には、清拭等のケアを行い、ゆっくり休んでいただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お一人おひとりの役割は、ほぼ固定化しつつある(モップかけ、洗濯物をたたむ、カーテン閉め、洗面台の掃除、布巾たたみ、テーブル拭き、ごみ投げなど)。裁縫や編み物、花の水換えや水遣り、野菜作りなど、生活歴やもっている力を活かした支援に努めている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談し、お金を所持し管理している方もいらっしゃる。管理することが難しい方は、外出の折に小遣い銭を持っていただき、希望するものを購入できるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	花見や散歩などの外気浴、買い物、時には「息子のところに行ってみたくて」と外に行かれることも、安全性に配慮しながら見守りなど支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	御利用者の希望を取り入れながら、年間行事計画を作成している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	若い頃には手紙を良く書かれていた方が、入居前より全く書かなくなっていたが、職員の働きかけにより、年賀状や礼状、近況を知らせる便りを書いて、御家族とのやり取りができるようになり、喜ばれている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居前に近所に住んでいらした方が、入居後も以前と同様にかぼちゃの煮物や御利用者の好みの物を届けてくださったりしている。外出の折に久しぶりに会った方が、その後、来所されることもあり、居心地良く過ごせるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修家の参加、伝達講習による職員への周知、抑制に当たるような言葉かけや道具の使用画がないか、検討している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	危険が予測されるとき名は施錠することもあるが、その理由、時間について業務日誌に記録し、ホーム長等への報告をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間での情報の共有や連絡などにより、いつもと違うなど出かけようとしているサインを見逃さず所在の確認に努めている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な物(刃物類や塩素系漂白剤)の保管場所は職員で決め、必要な時には、職員の見守りで行っていただいている。白いまな板では、野菜を切る際に手元が見えづらいと言う方には、色つきのまな板を使用するなど、配慮している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	セーフティマネージメント委員会を設置し、事故防止のマニュアルの整備(緊急時の対応マニュアル他)に努めている。与薬時に名前・日付・与薬時間など、都度声だし確認する手順を守り、誤薬事故の発生はなくなっている。ヒヤリハット報告書・事故報告書について検討し、再発防止のための環境整備や、勉強会などに取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署主催の普通救命講習を受講し、職員は修了証を取得している。応急手当や初期対応の訓練も、定期的に行っている。	○	新採用の職員も今年度、受講を予定している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災避難訓練の実施や、運営推進会議に自治会防火部長にも参加していただくなど、地域の人々の協力が得られるように努めている。	○	夜間の火災を想定した避難訓練の実施
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	ヒヤリハット報告書・事故報告書が提出された時には、必ずご家族への連絡や報告を行っており、起こりえるリスクについても、説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	お一人お一人の変化に気づけるように、表情や感情の変化、バイタルサインのチェックや入浴時の皮膚の状態などを観察している。変化が見られた時には、看護師への報告や対応その後の経過について、職員間での情報の共有と、速やかに対応に結び付けられるように努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	与薬手順マニュアルを整備し、与薬時に名前・日付・与薬時間など、都度声だし確認する手順を守り、誤薬事故の発生はなくなっている。処方内容が変わった時には、注意して観察しなければならないことなど職員間に周知し、必要時には医師への報告も行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘についての勉強会を行い、食事を整えたり、体操などで毎日体を動かすようにしたり、水分などの促しなど配慮している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	週2回義歯の洗浄日を決め、御自分でできない方には介助をしている。歯科医師の訪問診療や歯科検診で、義歯の調整や歯の治療を行っていただき、歯科衛生士による口腔ケアのアドバイスなど受けた。食後の歯磨きなどの声かけにより、口臭の気になる方はいない。	○	歯科医師との連携により、施設内での歯科検診の実施。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量・水分摂取量については、毎回観察し記録している。個別の好みに応じた食品を選んでお出ししたり、体調や飲み込み、食べやすさ(硬さ・量など)に配慮しながら、お出ししている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染拡大防止委員会を設置、感染症の拡大防止マニュアル整備し、感染性の吐物処理キットの常備、定期的な感染予防の学習会の企画、出勤・退勤時のうがい・手洗いの点検などの活動を行なっている。また、1日1回、手すり等の共有部分のハイター希釈液での清掃や食事前の手洗いの声かけ、来所された方へのうがい・手洗いの声かけなどを行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具(包丁・まな板・布巾)の消毒や冷蔵庫内の清掃をと取り決めて、行なっている。食品の賞味・消費期限の確認、日付の古いものから使用すること、調理してあまったものは処分する。日持ちのしないもの(肉・魚など)は、使う当日に配達してもらい、肉を切るときには牛乳パックを開いたものを使用し、使用した包丁などは必ず水洗いしてから他のものに使用するなどの約束事を、職員間で統一し行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	プランターを利用したガーデニングやバスを待つ人の腰掛の提供、靴を脱ぎ履きしやすいようにベンチの設置、臭い対策(ラベンダーのドライフラワーやコーヒークラッシュ)を行い、玄関周りの工夫に心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日が当たりすぎる場所でのカーテンの利用、季節感を取り入れた窓ガラスの貼り絵や壁の飾りつけ、写真の張替え等行なっている。建物の構造上、特に夜間、2回の物音が響いてしまう。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人一人のいつも居るお気に入りの場所があり、そこで思い思いに過ごせる様に配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使いなれた家具などを持ってきていただけるように説明しており、入居時には御家族と御本人が話し合い、家具やベッドの種類・置き場所など決めて持ってきている。また、ご本人の希望に沿って、物の移動などは行なっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度・湿度に配慮し、換気など適宜行なっている。排泄物の速やかな処理やトイレの清掃などを行い、不快な臭いを防ぐように努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下や階段、玄関など、共有部分には手すりが設置されている。片麻痺のある方や足の不自由な方のベッドに、開閉式のベッド柵を設置したことで、立ちあがりや移乗動作が安全に自力で行えるようになったことで、他の事に対しても意欲的なられた。ベッドから立ち上がり、歩き出す際にバランスを崩しやすい方には、ベッドとタンスを近づけて寄りかかる場所を確保したことで、安全に立ち上がりができるようになった。出来るだけ自立した生活を送れるように、工夫し支援している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	日めくりをかけたリ、カレンダーへの予定の書き込み、混乱や失敗があった時にも速やかに介入し、不安や挫折感を長引かせないような対応に努め、御本人が出来るだけ自立して暮らせる様に支援している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑作りや中庭を利用したレクリエーションの工夫など、御利用者が楽しんだり、活動できる様な環境の工夫に配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ✓ ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ✓ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者 ✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ①ほぼ全ての利用者 ✓ ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ①ほぼ全ての家族 ✓ ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ✓ ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p style="text-align: center;">✓</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">✓</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: center;">✓</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)嚙下体操や歩行練習など、毎日継続して行なっていることが、身体機能の向上や、御利用者の意欲の向上に成果をあげている。